

月報だより

月報だよりの原稿は毎月20日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mailで jimu@geppou.asj.or.jp 宛、なお、原稿も必ず0422-31-5487迄Faxでお送り下さい。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

山口大学理学部助教授

1. 助教授1名
2. 自然情報科学科 物理学講座
3. 宇宙物理学(観測)
4. 教養教育、理学部の専門教育、大学院理工学研究科の教育研究を分担。また、KDDIより国立天文台へ移管された32mパラボラアンテナ(山口市仁保に設置)を電波望遠鏡として活用し、教育研究に熱意をもって取り組むこと。
5. 2002年4月1日
6. 博士号取得者
7. ○履歴書、○業績リスト(科研費の取得状況等を含む)、○主要論文別刷り、○研究概要及び研究計画、○教育に対する抱負(教育経験がある場合はその概要を含む)、○照会可能者2名の氏名と連絡先、○推薦書(他薦の場合)
8. 2002年1月15日(火)
9. (1) 〒753-8512 山口市大字吉田1677-1
山口大学理学部自然情報科学科
物理学講座主任 繁岡 透

- (2) 同上 物理学講座 増山博行

Tel: 083-933-5675

Fax: 083-933-5768

E-mail: mashi@yamaguchi-u.ac.jp

10. 封筒に「物理学講座教官公募書類在中」と朱書き・書留で送付し、同時にE-mailで通知のこと。

名古屋大学太陽地球環境研究所教官

1. 助教授1名
2. 総合解析部門(愛知県豊川市)
3. 太陽地球系ダイナミクス
当部門では、太陽地球系の総合研究、特に領域間の相互作用の研究が行われています。
4. 今回の公募では、人工衛星/地上観測データの総合解析とシミュレーション/モデリングをつなぐ研究の発展に指導的役割を果たしていただくとともに、幅広く太陽地球環境科学の教育にも当たっていただける方を希望します。
また、全国共同利用研究所としての当研究所の任務を十分理解し、当研究所の研究にリーダーシップを発揮する方を希望します。
5. 平成14年4月1日以降のできるだけ早い時期
7. 履歴書、研究歴、業績リスト、主要論文別刷、研究計画書、自薦の場合は本人について意見を述べられる方2名の氏名と連絡先を記入した書面、他薦の場合は2名の方からの推薦書。
8. 2002年1月31日(木)(必着)
9. (1) 〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原3-13
名古屋大学太陽地球環境研究所
所長 上出洋介
Tel: 0533-89-5183
Fax: 0533-89-0409
(2) 〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原3-13
名古屋大学太陽地球環境研究所
総合解析部門主任 上出洋介
Tel: 0533-89-5183
Fax: 0533-89-0409
10. 封筒に「教官応募書類在中」と朱書き、書留で送付のこと。
●名古屋大学太陽地球環境研究所人事選考委員会の選考に基づき、同運営協議会の意見を求めて、同教授会で決定します。ただし、該当者がいない場合は決定を保留します。

宇宙科学研究所助教授

1. 助教授 1名
2. (1) 宇宙圈研究系 高エネルギー天体物理学第三部門
(2) 神奈川県相模原市由野台 3-1-1 宇宙科学研究所
- 3, 4. 飛翔体を用いた高エネルギー天体物理学の研究. 今後予定される X 線天文衛星の開発・観測運用を積極的に進めるとともに, 広く, 高エネルギー天体物理学の観測的研究・機器開発に中心的役割を果たす方を希望する. なお, 当該部門は, 現在, 國枝秀世教授・尾崎正伸助手が在籍し, 高エネルギー天体物理学第一部門, 同第二部門と協力して研究を行っている. 大学共同利用機関である本研究所の役割を理解し, 共同利用諸計画の遂行にも積極的な役割を果たしていただく必要がある.
5. 決定後できるだけ早い時期
7. (1) 略歴, (2) 研究歴, (3) 論文リスト及び主要論文別刷り, (4) 研究計画書, (5) 他薦の場合, 推薦書 2 通, 自薦の場合, 本人について意見を述べられる人 2 人の氏名と連絡先.
8. 2002 年 2 月 15 日(金)必着
9. (1) 〒 229-8510 神奈川県相模原市由野台 3-1-1 宇宙科学研究所 庶務課人事係
(2) 宇宙圈研究系 井上 一
Tel: 042-759-8149
Fax: 042-759-8455
E-mail: inoue@astro.isas.ac.jp
10. 封筒の表に, 「宇宙圈研究系助教授応募(推薦)書類在中」と朱書して下さい. 選考は, 宇宙科学研究所運営協議委員会において行います. 応募者に適任者がいない場合は決定を保留することがあります.

国立天文台 COE 研究員

1. 研究者若干名
2. 以下の各分野で公募します.
(1) 宇宙電波分野
45m 電波望遠鏡のマルチビーム超伝導受信機の開発, 45m 望遠鏡と干渉計を結んだレインボー, 大型ミリ波サブミリ波干渉計などミリ波・サブミリ波観測性能の高感度プロジェクトに従事し, 電波天文学分野における先進的な観測研究を推進する.
勤務地: 主として長野県南佐久郡南牧村野辺山
(2) すばる望遠鏡プロジェクト

共同利用を開始した大型光学赤外線望遠鏡「すばる」のプロジェクトに従事し, 望遠鏡, 観測装置に関わる開発研究やすばるを用いた観測研究を推進する.
勤務地: ハワイ観測所, 東京都三鷹市, 岡山県浅口郡など.

(3) VLBI 分野

VSOP, 国内 VLBI 等のプロジェクトに従事し, 活動的銀河核・星形成領域や星周領域のメーザー源などの観測・研究を推進する.

勤務地: 主として東京都三鷹市

(4) 一般分野

○天文学データ解析計算センター(地上観測を中心とした総合的天文データベースの構築等)

勤務地: 東京都三鷹市

○理論天文学(理論天文学, 大規模天文シミュレーション等)

勤務地: 東京都三鷹市

○太陽物理学(「ようこう」衛星, 太陽フレア望遠鏡等)

勤務地: 東京都三鷹市

○位置天文・天体力学研究(位置天文, 光赤外線干渉計, 重力波関連の技術開発等)

勤務地: 東京都三鷹市

○地球回転(地上 VLBI 統一計画, 月面 VLBI 等)

勤務地: 岩手県水沢市

○太陽電波(電波ヘリオグラフ等)

勤務地: 長野県南佐久郡南牧村野辺山 411

○天文機器開発実験センター(天文機器開発等)

勤務地: 東京都三鷹市

○公募分野: 一般(若干名)

上記以外の研究分野

勤務地: 主として東京都三鷹市

5. (1) 平成 14 年 4 月以降,

(2) 任期は原則として 2 年

6. 博士の学位を取得または平成 14 年 3 月 31 日(10 月取得の者はその旨記載のこと)までに取得見込みのもので, 採用時 35 歳未満のもの

7. (1) 履歴書, (2) 研究歴, (3) 研究論文リスト(査読論文とその他を区別し, 共著の主要論文には役割分担を記すこと)(4) 主要論文の別刷又はコピー, (5) 研究計画書(希望の分野・プロジェクトを明記のこと. 併願の場合はそれぞれの計画書), (6) 推薦書(ある場合は添付)

8. 平成 14 年 1 月 31 日(木)17 時までに必着

9. (1) 〒 181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台長 海部宣男

(2) 〒 181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台企画調整主幹 観山正見

Tel: 0422-34-3738

10. 封筒の表に「COE 研究員応募書類在中」(〇〇分

野○○)と朱記し、郵送の場合は簡易書留で送付すること。別に公募する「国立天文台研究員」に併せて応募することは差し支えない。

11. 待遇は非常勤講師の扱いで、給与は月額 30 万程度を供する。複数の分野に併願可能であるが、それぞれに応募書類を提出すること。なお、勤務時間のおよそ半分は自らの研究に当てることができる。

可能であるが、それぞれに応募書類を提出すること。なお、研究員の勤務時間のおよそ半分は自らの研究に当てることができる。

研究助成

国立天文台研究員（非常勤研究員）公募

1. 研究員（若干名）

国立天文台において、開発、観測、研究等に積極的に関わり、先進的な研究を推進する若手研究者を求める。以下に分野、及び勤務地を掲げる。

○公募分野：電波天文学分野（若干名）

勤務地：主として長野県南佐久郡南牧村野辺山

○公募分野：天文学データ解析計算センター（若干名）

勤務地：東京都三鷹市

○公募分野：光学赤外線天文学（若干名）

勤務地：東京都三鷹市（若干名）又は岡山県浅口郡鴨方町（若干名）

（応募に関しては勤務地を明記のこと。併願も可能。）

○公募分野：一般（若干名）

上記以外の研究分野

勤務地：主として東京都三鷹市

5. (1) 平成 14 年 4 月 1 日以降

(2) 原則として任期 2 年

6. 大学院修士課程修了、又はそれと同等の学力を持つ者。

7. (1) 履歴書、(2) 研究歴、(3) 研究論文リスト（査読論文とその他を区別し、共著の主要論文には役割分担を記すこと）、(4) 主要論文の別刷又はコピー、(5) 研究計画書（希望の分野・勤務地、受け入れ教官名（希望）を明記のこと）、(6) 推薦書（ある場合は添付）

8. 平成 14 年 1 月 31 日(木)17 時までに必着

9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台長 海部宣男

(2) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台企画調整主幹

観山正見 TEL: 0422-34-3738

10. 封筒の表に「国立天文台研究員応募書類在中」（○○分野）と朱記し、郵送の場合は簡易書留で送付すること。別に公募する「国立天文台 COE 研究員」に併せて応募することは差し支えない。

11. 教務補佐員としての給与を支給する（詳細については上記に問い合わせること）。複数の分野に併願

(財)天文学振興財団 平成 14 年度研究助成公募

当財団では、国立天文台の事業支援等を通じて天文学の振興を図っております。当財団の平成 13 年度の研究助成は、森 正夫（専修大学）及び徂徠和夫（国立天文台）の 2 氏 2 件に対して計 200 万円を交付しました。

平成 14 年度の研究助成希望者を下記の要領で公募します。

平成 13 年 11 月 15 日

(財)天文学振興財団理事長 小平桂一

1. 公募種目

(1) 研究助成

- a. 対象：天文学に関する優れた研究活動を行おうとする個人又は団体の代表者、原則として 35 才以下
b. 助成：総額 200 万円とし、助成件数は 1～2 件程度

(2) 国際交流に対する助成

- a. 対象：天文学に関する海外での国際交流活動（1 ヶ月以内）に平成 14 年 4 月以降参加する研究者
b. 助成：派遣に要する往復航空賃（実績平均 1 件当たり 17 万円程度）及び滞在費の一部とし、助成件数は年間 10 件程度

(3) 国際研究集会参加に対する助成

- a. 対象：平成 14 年 4 月以降に海外で開催される天文学に関する国際研究集会（10 日以内）に参加、発表する研究者
c. 助成：派遣に要する往復航空賃（実績平均 1 件当たり 15 万円程度）とし、助成件数は年間 15 件程度

2. 申込期限：

(1) は 平成 14 年 1 月末日

(2) (3) は平成 14 年 5 月末日

9 月末日

平成 15 年 1 月末日（計 3 回）

3. 選考結果：選考委員会で審査の上、採択の可否については、各申込期限の約 1 ヶ月後に文書で通知します。

4. 報告：研究助成は、年度末、それ以外の助成は、帰国後 1 ヶ月以内に報告書を提出して頂きます。

5. 申請：申請書は事務室あてに請求して下さい。
6. 問い合わせ先：
(財)天文学振興財団事務室
〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内
Tel: 0422-34-8801 Fax: 0422-34-4053

研究会・集会案内

高校生天体観測ネットワーク全国フォーラム 「5000 人の若き天文学者たちの挑戦」

高校生天体観測ネットワークは、多くの高校生たちに天体観測をするチャンスをつくりたいとの趣旨から 1998 年のしし座流星群を機に発足しました。これまで海外を含め数千人もの高校生がこれに参加して観測を行い、その成果は日本天文学会をはじめ多くの研究会等で評価を得ています。

今般、これまでの 4 年間の集大成として、下記に示すようなフォーラムを開催することになりました。高校生のみならず、さまざまな研究者や観測グループによるしし座流星群の観測・研究成果についての報告をお願いします。このフォーラムが、天文学ならびに天文教育・普及の拡充につながればと考えています。

1. 日時
2002 年 3 月 27 日(水) 13 時～18 時
2. 場所
菊屋ホテル
住所：茨城県水戸市大町 3-2-7
電話：029-224-2417
交通：水戸駅より茨城大行きバス「南町 2 丁目」下車 徒歩 8 分
3. 内容
第 1 部「天文教育・普及がおりなした天体観測ネットワークの成果」 13:00～15:00
1998 年から全国の高校生たちがおこなってきたしし座流星群、および皆既月食や惑星食の観測結果の集大成
第 2 部「Leonids が語る太陽系の姿－科学的視点から流星群を探る」 15:00～18:00
高校生による流星群研究の成果のみならず、アマチュアやプロの研究者による研究の成果の報告
第 3 部「天体観測ネットワーク交流会」
19:00～20:30
ポスター発表と、高校生・一般・研究者等さまざまなグループの交流会

4. 主催
高校生天体観測ネットワーク運営委員会
5. 共催
天文教育普及研究会 日本天文学会
日本惑星科学会 東亜天文学会
6. 後援
文部科学省・国立天文台 天文学振興財団
文部科学省・宇宙科学研究所 日本理科教育学会
日本地学教育学会 日本理科教育協会
日本流星研究会 東京近郊地区流星観測者会
日本プラネタリウム協会
日本プラネタリウム研究会
全日本プラネタリウム連絡協議会
全国天体観測施設の会 全国科学博物館協議会
7. 旅費・宿泊費の支給
参加者には、限られた範囲内で旅費および宿泊費を支給できます(120 名程度)。この場合の宿泊は会場の「菊屋ホテル」になります。
8. 発表の募集について
第 1 部、第 2 部、およびポスターによる発表を募集します。発表時間は、第 1 部：各 10 分、第 2 部：各 20 分です(予定)。いずれも質疑応答を含めた時間です。ポスターは横 90cm × 縦 180cm 以内でお願いします。
9. 参加・発表・旅費、宿泊費支給の申込
下記問い合わせ先までお申し込み下さい。申込用紙は、インターネット <http://www.astro-hs.net/> からダウンロードするか、または、下記に e-mail もしくはファックスにてお申し出いただければご送付いたします。
10. 申込期限
発表申込：2002 年 1 月 31 日
参加申込：2002 年 2 月 28 日
※参加及び発表申込の受理、並びに旅費・宿泊費支給の可否については、申込期限以降に申込者宛通知します。また、発表者及び発表内容は <http://www.astro-hs.net/> にも掲載します。
11. 問合せ
ミュージアムパーク茨城県自然博物館 高橋 淳
(email:j-takahashi@hi-ho.ne.jp) まで
〒306-0622 茨城県岩井市大崎 700
fax: 0297-38-1999
12. その他
この事業は、平成 13 年度「子ども夢基金」の助成金によって行われています。

会 務 案 内

2002 年日本天文学会春季年会企画セッションの案内

天文月報前号(2001 年 12 月号 p.621)の 2002 年春季年会案内に記載してありました企画セッション「しし座流星群」は流星群が 11 月 19 日大出現しましたので予定通り開催いたします。

年会実行委員長 茂山俊和

2002 年度内地留学奨学金支給者の決定について(報告)

内地留学奨学金選考委員長 西村昌能

天文月報 2001 年 8 月号で表記の奨学金について募集しましたところ、下記 3 名の方から応募がありました。本委員会では研究計画、奨学金の使途に関して詳細に吟味、議論した結果、応募者全員について下記の金額を支給する事に決定いたしましたので、ご報告いたします。(掲載はアイウエオ順、敬称略です。)

1) 氏名: 有本淳一

所属: 京都市立塔南高等学校

研究題目: プライトリム分子雲に付随するおうし座 T 型星の探査

受入機関及び指導教官: 國學院大学 小倉勝男

支給金額: 90,000 円

2) 氏名: 篠原秀雄

所属: 埼玉県立三郷北高等学校

研究題目: 高等学校物理における天文分野の指導方法に関する研究

受入機関及び指導教官: 国立天文台天文情報センター 縣 秀彦

支給金額: 80,000 円

3) 氏名: 長谷川 均

所属: (株) アステック e-コマース

研究題目: 太陽系天体のミリ波サブミリ波観測

受入機関及び指導教官: 国立天文台電波天文学研究系 浮田信治

支給金額: 80,000 円

【日本天文学会評議員会議事録】

日時: 2001 年 10 月 5 日(金) 12 時 00 分 ~ 13 時 15 分

場所: イーグレひめじ 4 階会議室

出席者: 家, 池内, 井上, 上野, 岡村, 加藤, 高津, 小杉, 小山, 谷口, 長谷川, 福江, 福島, 松田, 観山, 渡部 以上 16 名。

欠席者: 石黒, 奥田, 海部, 木下, 小平, 佐藤(勝), 佐藤(修), 鈴木, 須藤, 高原, 中村, 野本, 林, 吉田 以上 14 名。

有効委任状提出者: 石黒, 奥田, 木下, 小平, 佐藤(修), 鈴木, 須藤, 高原, 野本, 吉田 以上 10 名。

他に理事会から田原理事長, 唐牛副理事長, 郷田理事, 大石理事, 松原理事, 立松理事, 茂山理事, 山岡天体発見賞選考委員会委員長, 東條事務長が出席。

議事に先立ち, 議長に家 正則氏を, 署名人名に池内 了氏, 谷口義明氏を選出した。

〈報告〉

1. 前回(2001 年 7 月 14 日)の評議員会議事録が郷田庶務理事から報告され, 承認された。
2. PASJ 会員向けの電子版アクセス制限について
天文学会員と購読機関に対する PASJ 電子版のアクセス制限について理事会で決定した実施事項について郷田庶務理事より説明があった。
3. 年会実行委員の補充と交替の報告
茂山年会理事(年会実行委員会委員長)より, 年会実行委員会の新たな委員として鈴木知治氏, また戸谷友則氏の海外出張に伴い, 河野孝太郎氏に交替した旨のことが報告された。なお, この新委員は, 理事会で議決を経た上, 理事長により任命されている。
4. その他

(1) 内地留学奨学金選考委員会からの選考結果について

西村内地留学奨学金選考委員会委員長からの 2001 年度内地留学奨学金の選考結果が, 郷田庶務理事より代理で報告された。報告内容は, 研究計画, 奨学金の使途に関して詳細に吟味, 議論した結果, 応募者 3 名全員について支給することとなったという旨のものであった。

〈議題〉

1. 2001 年秋季年会について

茂山年会理事より, 2002 年秋季年会について以下のような報告があった。

10 月 3 日に開催された記者会見では, 3 件の発表が行われた。また, 参加報道機関は 8 社であった。

この発表に対して、現在までも多数の報道がなされたことを確認している。さらに年会に関して本評議員会開催時点までの全体の参加者数（約 630 名）等の報告もあった。

2. 2001 年度秋季通常総会について

郷田庶務理事から本日開催予定の総会の内容、及び、本評議員会までの事前投票者数（288 名）の報告があった。

3. 早川幸男基金内規変更（案）について

郷田庶務理事から、日本天文学会早川幸男基金の内規の一部を変更したい旨の申し出があった。今までの内規だと、早川幸男基金選考委員には、評議員を 3 名含まなくてはならないが、選考委員会の任期（2 年）と評議員の任期のフェーズが、ずれているため、選考委員の任期途中に、評議員の任期が切れてしまう場合等の問題点が指摘され、評議員を 3 名含むという規定をはずしたいというものである。現内規の制定に関する経緯も含め議論ののち、この申し出を承認し、内規の一部を以下のように変更することが議決された。

早川幸男基金内規変更：

第 2 条の 4. 援助対象者の選考の箇所のうち、以下の部分を変更する。

（変更前）理事長が、評議員 3 名を含む 5 名の選考委員（うち 1 名、委員長）を本会正会員の中から指名する。

（変更後）理事長が、5 名の選考委員（うち 1 名、委員長）を本会正会員の中から指名する。

4. 天文功労賞内規（案）について

継続審議事項となっていた天体発見以外の大きな貢献に対して天文愛好家を対象に授与される新たな賞の制定に対して、大石庶務理事より賞の名前を天文功労賞とすること、およびその内規案について説明があった。

また賞の制定に関わった天体発見賞選考委員会の山岡委員長からも補足説明があった。議論ののち、この内規案を承認した。選考委員会内部における申し合わせ事項案については意見交換があり、詳細は今後さらに関係者で検討するようとの要望があった。

5. 財政改革案について

松原会計理事より、学会財政の動向について状況説明があった。また、学会の予算は長期的な赤字傾向にあり、運用上の努力や抜本的な改革が早急に必要であり、理事会として改革案を検討中である旨の報告があった。それに対して、意見交換を行い、理事会での検討をさらに進めて具体案を作成するよう理事会に要望した。

6. 評議員会開催通知等について

事務の迅速化および通信経費の削減のため、評議員会の開催通知を電子メールで行いたい旨の提案が郷田庶務理事よりあった。なお、定款では開催通知は書面で行うとの規定があるが、文部科学省に問い合わせたところ、この部分は運用上、電子メールでもかまわないとの返答を得ているとの説明もあった。議論ののち、開催通知は電子メールで行ってもよいことを承認した。またさらに、出欠の返答も電子メールで可能とし、委任状に関しては、自筆のものをファックスで送付することで書面による返答とみなすことを了承した。

7. 宇宙 3 機関の統合に関する要望書

田原理事長より、宇宙 3 機関（宇宙開発事業団、航空宇宙技術研究所、宇宙科学研究所）の統合に関して、統合後もこれまで宇宙研が果たしてきた共同利用機関としての役割、大学院教育等は新機関においても適切に保持され、日本のスペースサイエンスの発展につながるようなものにしたいことを強く訴えて行く必要性を理事会で確認したこと、またその旨を記した要望書を提出することに理事会で決定したこと、さらにその作成した要望案についての説明があった。また、統合の一般状況について、井上氏と小杉氏より補足説明があった。さらに要望書案に対して本評議員会の欠席者から事前に寄せられた意見が、郷田庶務理事から紹介された。議論ののち、要望書を出すことを承認した。また、宛先は文部科学大臣宛とすること、さらに要望書を送った旨を統合準備会議メンバー等にも通知することを決定した。要望書の文面の詳細については、関係理事で最終的に詰めてもらうことを要望した。

8. その他

(1) 次回評議員会について

次回評議員会の予定を以下のように決定した。

2001 年 1 月 26 日(土)

2001 年 11 月 5 日

議長 家 正則
署名人 池内 了
署名人 谷口義明

【理事会議事録】

日時：2001年10月6日(土)12時00分～13時20分

場所：イーグレひめじ4階会議室

出席者：田原、松田、郷田、大石、松原、立松、大橋、
上野、茂山、加藤、松元、黒田、山内、吉田
以上14名

欠席者：唐牛 以上1名

有効委任状提出者：唐牛 以上1名

他に、東條事務長が参加した。

議事に先立ち、署名人を選出した。

議長：田原博人

署名人：大石雅寿、郷田直輝

〈報告〉

1. 前回(2001年7月7日)の理事会議事録が郷田庶務理事より報告され、承認された。

2. 学術用語集増刷に関して

大石庶務理事より、学術用語集増刷に関して、前回の理事会以降の経緯について以下のような説明があった。前回の理事会での承認事項に従い、文部科学省研究振興局学術研究助成課の担当者と交渉を行った。また、理事長名で文科省に担当部会に修正案を出したい旨の要望書を出した。それに対して、修正のためには、科学技術・学術審議会用語担当部会での審議が必要との回答があった。それに対して担当部会を立ち上げる目処を回答するようにと要求中である。

3. その他

(1) 内地留学奨学金選考委員会からの選考結果について

西村内地留学奨学金選考委員会委員長からの2001年度内地留学奨学金の選考結果が、郷田庶務理事より代理で報告された。報告内容は、研究計画、奨学金の使途に関して詳細に吟味、議論した結果、応募者3名全員について支給することとなったという旨のものであった。

(2) 2002年春季年会について

吉田年会開催地理事より、2002年春季年会に関する準備状況に関して、次のような報告があった。

記者会見は、3月27日、年会発表は、3月28日から30日、公開講演会は、3月31日に茨城県立図書館にて開かれる予定。公開講演会は、「宇宙の歴史」というテーマで行う。講演者は、現在交渉中である。さらに、学会開催時に合わせて、茨城大学主催で、水戸市総合教育研究所が持つ水戸市移動天文台車「ミレニアムスター」を利用して、天体観測を行う予定である。ホテルの確保は、

日本旅行水戸支店に依頼した。

以上の報告に対して、公開講演者の選択、講演時間、パラレルセッション数、ポスター発表数、特別セッションなどに関して意見交換を行った。

(3) 2004年秋季以降の年会について

2004年秋季年会に関して、国立天文台(水沢)との交渉経緯について郷田庶務理事より次のような報告があった。当初会場数の都合で水沢で開くことはかなり困難であるとのことであったが、国立天文台(水沢)としては是非引き受けたいとの要望もあり、現在、開催地を岩手大学でできないかということで調整している。

また、2005年以降の年会開催地として、北海道大学工学部で引き受けたいとの要望がきている旨、郷田庶務理事より報告があった。2005年秋季年会ということで、今後調整したいとの郷田庶務理事の発言があった。

(4) 平成14年度科学研究費補助金研究成果公開促進費への申請に関して

平成14年に開催予定の天文学会共催であるIAUアジア太平洋地域会議経費のため、平成14年度科研費研究成果公開促進費「研究成果公开发表(C)」に天文学会より申請する予定との報告が、郷田庶務理事よりあった。また、天文学会公開講演会のために、「研究成果公开发表(B)」に申請予定と加藤教育理事からの報告もあった。

(5) IAUアジア太平洋地域会議について

IAUアジア太平洋地域会議LOCでもある上野天文月報理事より、平成14年に開催予定のIAUアジア太平洋地域会議についての準備状況、早期登録は3月末までであること等の報告があった。

〈議題〉

1. 新入会員の承認

郷田庶務理事より、新入会員申込者リストの説明が資料を基にあった。議論ののち、正会員として6名、準会員として2名の入会、および準会員から正会員への移籍1名を承認した。

2. 2001年秋季年会について

茂山年会理事より、2001年秋季年会について以下のような報告があった。10月3日に開催された記者会見では3件の発表が行われた。また、参加報道機関は8社であった。会見内容に関して多くの報道が行われた事を確認している。口頭講演は、307件、ポスター講演は218件、講演キャンセルは3件あった。さらに年会に関して本理事会開催時点までの全体の年会登録者は732名、ジュニアセッションのみの登録者は12名であった。懇親会参加者は、350名で大盛況であった。さらに、液晶プロジェク

タ使用が増加し、そのため生じた問題もあり、今後の検討が必要との茂山理事の問題提起があり、意見交換を行った。

また、加藤教育理事（年会実行委員保育室担当）より、保育室の利用は3家族4名であり、無事終了したことが報告された。

3. 財政改革案に関して

松原会計理事より、学会財政の動向についての状況説明や9月15日に行われた実務理事会での議論、またさらに電子メールで行った持ち回り理事会での議論についての説明があった。学会の予算は長期的な赤字傾向にあり、運用上の努力や抜本的な改革が早急に必要である。その中で、理事会として検討すべき改革方針について特に説明が行われ、意見交換を行った。また、今後、実務理事会を開いて具体案の検討を行い、できれば次の理事会と評議員会で決定して、早急に実現を目指すこととなった。

4. その他

(1) 2002年秋季年会について

山内年会開催地理事より、2002年秋季年会における天文教育フォーラムの日程が日曜日だったが、年会講演期間中に移すことは可能であるとの説明があった。議論ののち、年会講演期間中に移すこととし、詳細な日時は年会実行委員会で決定してもらうこととした。

また、JTBに事前の参加登録作業をお願いしているが、天文学会のホームページに、JTBの登録ページをリンクすることは可能かとの質問が山内理事よりあった。議論ののち、短期間でもあるし、特に問題はないとして、この件は可能ということで承認した。

(2) 理事会開催通知等について

事務の迅速化および通信経費の削減のため、理事会の開催通知を電子メールで行いたい旨の提案が郷田庶務理事よりあった。議論ののち、開催通知は電子メールで行ってもよいことを承認した。

またさらに、評議員会での了承事項と同様に出欠の返答も電子メールで可能とし、委任状に関しては、自筆のものをファックスで送付することで書面による返答とみなすことを了承した。

(3) 宇宙3機関の統合に関する要望書について

宇宙3機関（宇宙開発事業団、航空宇宙技術研究所、宇宙科学研究所）の統合に関して、統合後もこれまで宇宙研が果たしてきた共同利用機関としての役割、大学院教育等は新機関においても適切に保持され、日本のスペースサイエンスの発展につながるようなものにしないといけないことを強く訴えて行く必要性を持ち回り理事会（平成13年9月20日～9月27日）で確認し、その旨を記した要望書を文部科学大臣宛に提出することも持ち回り理事会で決定したが、さらに10月5日に開かれた評議員会でも要望書を提出することが決定したことが田原理事長より報告された。これに対して要望書の文面の詳細および文部科学省への提出方法等については、理事長、庶務理事で今後検討して実行するので任せてほしいとの田原理事長からの要望があり、議論ののち、承認した。

(4) 総会のあり方について

田原理事長より、総会のあり方、運営方法について、昨日の総会で出された意見をもとに、今後理事会でも検討したいとの提案があり、了承した。

(5) 次回理事会の予定について

次回理事会の予定を以下のように決定した。
2002年1月12日(土)

2001年11月6日

議長 田原博人 印
署名人 大石雅寿 印
署名人 郷田直輝 印

編集委員 上野宗孝（編集長）、伊藤孝士、上田暁俊、大石奈緒子、太田耕司、

小野智子、斎藤芳隆、土橋一仁、内藤統也、藤田 裕

平成13年12月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会

印刷発行 印刷所 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12 啓文堂 松本印刷

定価700円（本体667円）発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359（事務室）／0422-31-5488（月報・欧文編集） Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595

日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: jimu@geppou.asj.or.jp DTP: 峯尾由紀子